

インターシップを終わって 栃木県立真岡北陵高校 生物生産科2年 野沢伸嘉

私は有機農業について、「無駄の多い、経営効率の悪い農業」とのイメージを持っていた。なぜなら農業を1回散布すれば済む作業を、わざわざ手間を増やして草取りをして安全を追及することに何の利益が生まれるのかと理解できなかった。しかし、この現場実習を経験して慣行農業の方が無駄の多いことに気が付いた。

1点目は雑草の肥沃な栄養分をロスしていること。雑草は地中深くの栄養を吸い上げて大気中の窒素を固定することでエネルギーを得ている。稲葉先生いわく、「大気のエネルギーが凝縮されている。それを堆肥にすると大きな効果をもたらすのだ。」と

2点目は移植や播種のロス。慣行農業の植え付け本数は4~6本が一般的だが、イネ科の植物は1本が15~16本に分げつし、1本だけを残して枯れ死してしまう。また、農薬を散布することで天敵を田畑から追い出してしまうので殺菌剤の水道管に苗が混入したように、害虫の普段以上の力を引き出してしまうのだ。それとは対照的に有機農業では1~2本だけを、雑草や病害虫への抵抗が備わった段階で移植するのでロスが少ない。また田畑で食物連鎖を始めとする生態系が形成され、病害虫の働きが抑制される。農薬を散布し植えられている田んぼの様子はまるでイネが監禁されているかのように映った。

稲葉先生はヒマワリや大豆、菜種を搾った油には吸収したセシウムが移行しないことを、「天からの授かりもの」と表現していた。経営効率が上がったとしても、農作業の負担が軽減される技術が開発されたとしても、それが自然の生態系を狂わせ、作物を「監禁」するものであれば、自分の首を絞めることと同じである。農作物が田畑で自然に近い環境で栽培される価値と意義を感じさせられた経験だった。

### 稲刈り体験のお知らせ 新米でおいしい昼食を用意いたします

日時 10月20日(土) 10:00~14:00(受付9:30)  
 場所 有機農業技術支援センター (上三川町下神主 1233)  
 参加費 大人¥500 子供¥300(小学生以上)  
 問い合わせ 申込み 上三川有機農業推進協議会 Tel fax 0285-53-1133  
 担当 笠井 稲葉

当初6月30日よつ葉生協さんの田植え体験田の極早生「五百川」の刈り取りを予定しておりましたが稲の生理を無視した人間のもくろみが破綻してしまいました。なんと田植え1週間で稲穂が出てきてしまったのです。コンバインにもかからない短い草丈に小さな穂がついてしまったのです。これは稲の感光性によるものだと思います。私たち人間は6月初旬中旬下旬の日の長さの差を特段感じません。しかし植物は違います。夏至が過ぎれば確実に日が短くなっていきます。6月30日に田植えされたイネはそれを感じ子孫を残すために大急ぎで穂を付けたのでしょう。小さな穂をつけた五百川をたいへんいとおしく思いました。と同時に人間の傲慢さを感じました。菜種の裏作としてこの極早生を植えたことをお知らせした便りに東京の相原さんから「それでこそ農民の力、農民の知恵」とお褒めのお便りをいただいてうれしかったのですが、今はあの小さな稲穂に恥ずかしさを感じております。久しぶりにみんなで手刈りをしました。今回の刈り取る稲は黒米です。雄々しく生き生きと稲穂が稔っております。ぜひお出かけください。

### お知らせ

#### ① 境野米子さんの講演録

8月18日に行われた境野米子の講演を米田玲子さんが書き起こしてくれました。民間稲作研究所のホームページにアップされております。

② 平成23年産の小麦。大麦があります。飼料、緑肥に活用される方がおられましたらお知らせ下さい。セシウム含有量は最大で44bqです。肥料、飼料の基準をみたしております。風評被害で売れなかったものです。代金は保管料などの雑費のため小麦30kg1袋¥300 大麦25kg1袋¥250です。先着順にお渡しいたします。